

謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
本年も、当院の地域連携にご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 年頭所感



名古屋市立緑市民病院  
病院長 山本 憲一

新年あけましておめでとうございます。

平成24年4月から始まった指定管理制度は5年が過ぎました。これまで前院長の神谷保廣先生のもと、急性期病院としてのしくみ作りとして、「電子カルテ導入」「日本医療機能評価機構からの認定」「DPC対象病院」といった大事業を達成してきました。こうしたなかで、突然、昨年4月に院長職を引き継ぐことになりましたが、神谷先生のもとではいろいろと勉強させていただいておりました。

私がこれまで強く感じていたのは、たくさんの患者を診ないことには病院が地域住民に貢献しているとはいえないということです。緑市民病院のファンを増やすにはどうすればよいのか。多くの患者が当院を受診、入院していただけるように、まずは「断らない」ことを第一に、職員の意識改革や病診連携システムの改善などに取り組んでまいりました。

今後5～10年の目標としましては、「地域包括ケアシステム」の充実と考えております。住み慣れた地域で医療・介護・生活支援のすべてが受けられる街づくりは住民にとって非常に幸せなことです。当院では診療科が充実しておりますので急性期医療への対応はもとより、包括ケア病棟を備えていることから亜急性期～回復期、在宅支援への対応まですべて可能となっております。

本年1月より新しい血管撮影装置が稼働いたします。特に循環器領域の検査・治療に対しての精度向上が期待されます。また2～3月にかけては、新しい骨密度測定装置、マンモグラフィも導入されます。さらには、手術用顕微鏡、手術用ナビゲーションシステム、超音波検査器の更新など高額機器の導入を検討中であり、新しい検査・手術機器が入ることで、地域の先生方にも貢献できるものと考えております。

本年も変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

**\*第 19 回地域医療研究会  
を開催いたしました\***

当院にて平成 29 年  
12 月 13 日(水)開催。  
院内外、46 名の方が熱  
心に聴講されました。  
たくさんの質問があり  
有意義な研究会になり  
ました。



**【特別講演】**

「NASHの病態とこれからの治療戦略  
—内分泌糖尿病内科医の立場から—」  
名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・  
代謝内科学  
名古屋市立大学病院 内分泌・糖尿病内科  
准教授 田中 智洋 先生

**\*第 20 回  
地域医療研究会のご案内\***

日 時：平成 30 年 2 月 8 日 (木)  
19 時 45 分から 21 時 00 分  
場 所：名古屋市立緑市民病院  
北館 4 階 講義室

**【特別講演】**

座長 名古屋市立緑市民病院  
循環器内科部長 笠松 謙

『地域で取り組む  
心房細動治療』  
藤田保健衛生大学病院 循環器内科  
教授 渡邊 英一 先生

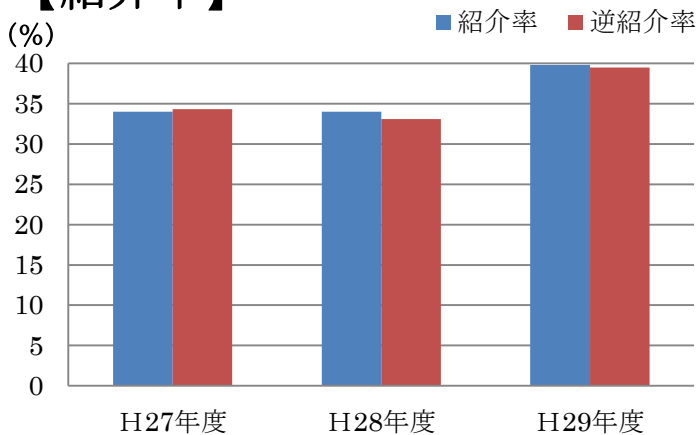


◆◆◆ 医療統計 ◆◆◆

※H29 年度統計は H29. 11 までの実績  
数値は月平均

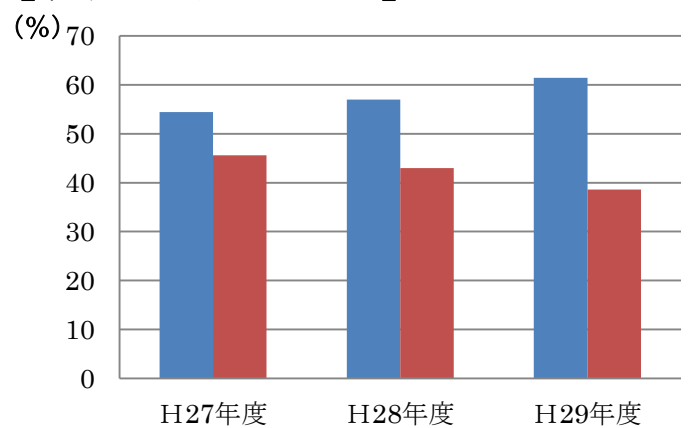


**【紹介率】**



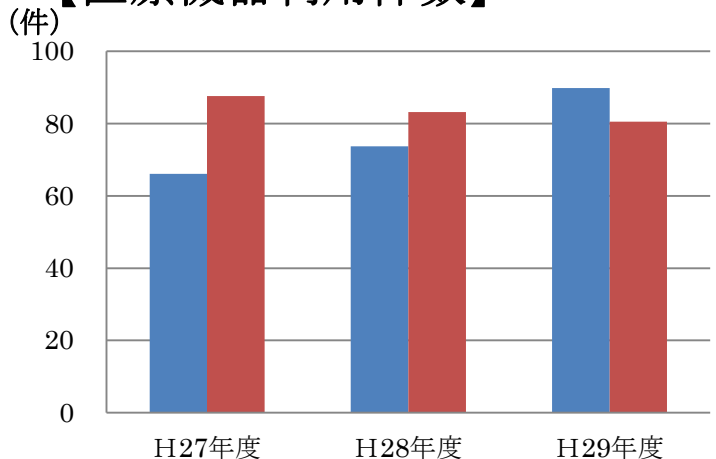
※ 地域医療支援病院の紹介率で計算

**【紹介患者予約率】** ■ 予約受診 ■ 予約なし受診



※患者さんご本人が電話で直接予約  
できます。

**【医療機器利用件数】**



**【医療相談件数】**

